

いやにな、ちゃうよ

国際興業社主

☆…Nという男がよくこんなことをいう。「おい、S、今度いっしょに飲おときおまえの妹を連れてこいよ。俺の妹も連れてくるから。おまえのところの妹は美人？どんなタイプ？山口白恵、アグネスチャン、……？。ああそれからT、おまえの彼女も連れてこいよ。え、二人の間には何も無いの？」

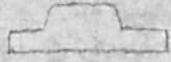

T:「何も無いよ。」

N:「へえー。下着一枚も無いんだって。すげえや。」

こんな調子で話しながら、僕に対しては、

「ああ、おまえのところは冗費でも連れてきたら。」

とくる。まあ冗談なのは当然としても、まるで妹がいると偉いともいうような口ぶりだ。Nのところの妹は品物のようにNが自由に使えるのですかねえ。

☆…またNはあるとき、僕に  こんな絵を示して、「この絵にタイヤを入れてみる。」という。僕が  こんなふうにかくと、Nはにやにや笑いながら、「本当はねえ、こうなんだよ。」と書きなおす。まあ僕が常識を知らないといえはそのとおりだが、車をもっているというのはそんなに偉いことなのですかねえ。あんなもの石油がなくなればただの鉄の箱じゃありませんか。

☆…まあいやになることは他にいろいろあるけれど、そんな

ときどうしたらいいんでしょうねえ。「どうせ俺は……だ。」と開き
なおってみても空しいし、二子山親方みたいに腕を組んで「人間
しんぼうだ。」と試してみても始まらないし……まあじっくり考
えてみることにしましょうか。

<以上>